



東洋医学公益講座

第36回

- ✓ 講師：羅 予澤
- ✓ 提供：未病予防協会
- ✓ 協賛：(株)ベンチャーバンク

先人の智慧、後世の階段

東洋医学生理学基礎 胃小腸大腸

「六腑」の主な役割

「六腑」

胃・小腸・大腸・胆・三焦・膀胱

臓に蓄積する精、神、気を作るため

✓ 食べ物と水を取り入れる

✓ その中のエキスを取り出す

✓ 体に必要な物を作る

✓ 老廃物を外に排出する

18～26回目の
内容をご参考に

「胃」に関する東西医学の違い



西洋医学

胃 = 噴門から幽門までの胃袋

東洋医学

広義の胃 = 口から肛門までの胃・
小腸・大腸を胃家という

狭義の胃 = 口から幽門まで

「胃」の主な働き

「腐熟水谷」 = 消化の消

胃 = 口～幽門の消化器の内側の粘膜

脾 = 消化器の外側の内臓平滑筋

胃と脾の表裏関係

咀嚼とほうれい線の関係

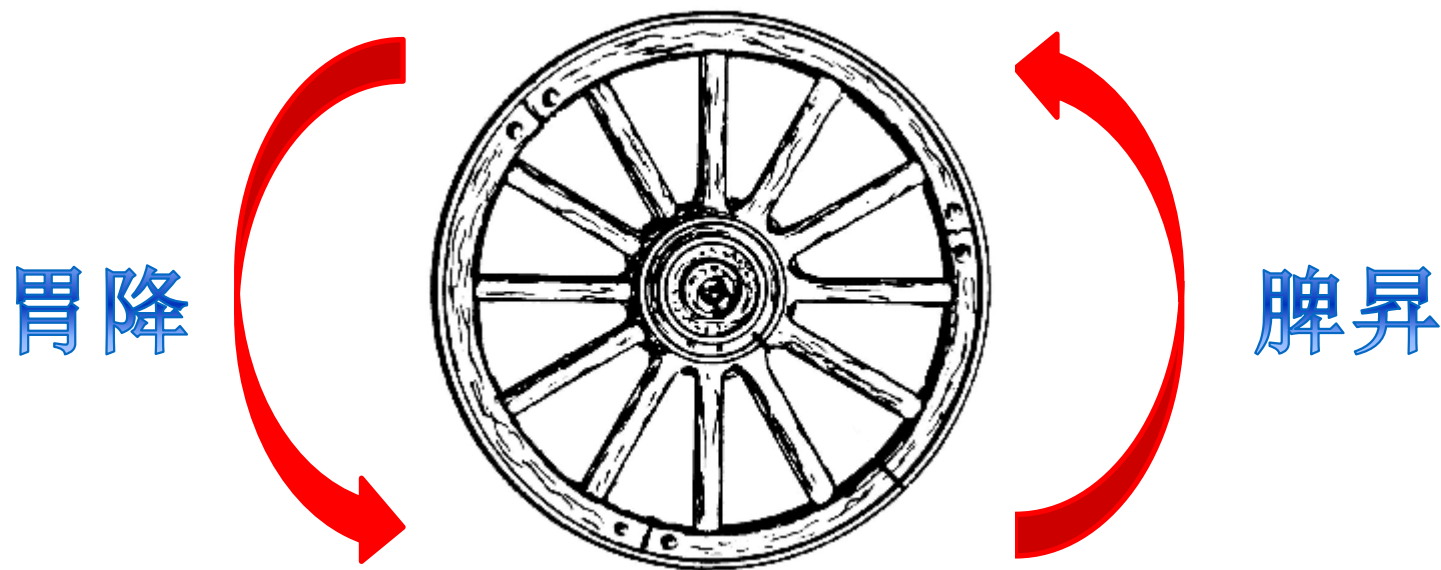
咀嚼 = よく噛み砕く = 「胃」の働き

胃・大腸の経絡は顔の表面を通り、
上下の顎をコントロールする

胃と大腸の機能が弱ると、
表情筋が緩みほうれい線が深くなる

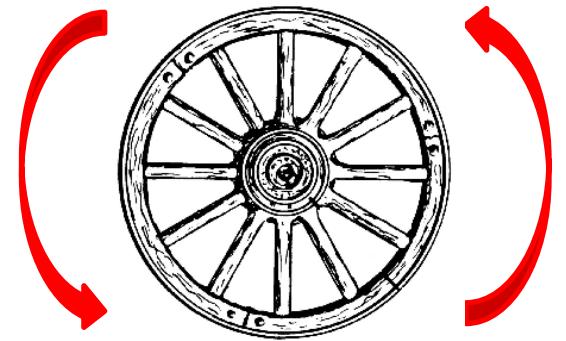
脾胃は全身を回す車輪

脾昇 = 昇清(水穀精微を全身に運ぶ)
胃降 = 降濁(水穀を処理、排泄する)



脾胃の升降機能が弱ると

- ✓ 中焦が詰まる
- ✓ 心肺の機能が低下する
- ✓ 肝胆の機能が低下する
- ✓ 消化排泄機能が低下する
- ✓ 生殖機能が低下する
- ✓ 病気&老化しやすい



胃気は漢方治療のバロメータ

「有胃気則生、無胃気則死」

重病の場合、胃気（消化機能）があれば
生きられる、胃気がなければ死ぬ

病気の治療には、

先ずは消化機能を高める事が重要！

例えば…

胃脾の機能が低下していると

- ✓ 栄養素を摂って、吸収されない
- ✓ 薬を飲んでも薬効が全身に届かない



肉のあるところに脾があり

脾主肉

- ✓ 消化器など内臓の外側の平滑筋
- ✓ 全身の骨格筋

筋肉 = 脾

糖質、脂質、タンパク質の貯蔵庫

ドロドロの土壤に命は育たない

胃脾の働き = 土の気

胃腸の周りにガスや水が多くなると

- ✓ 胃の働きが悪い 胃痛、膨満感
- ✓ 脾の働きが低下 ⇒ 食欲不振、嘔吐
- ✓ 腸の動きが鈍い 便秘、下痢

小腸の主な働き

「分清別濁」 = 清濁を分ける

✓ 要るもの → 吸収利用

✓ 要らないもの → 大腸へ送る



唾液は大腸から！？

大腸に入るドロドロの残渣が

- 小腸の熱で加熱を受け
- 中の水が水蒸気になり
- 経絡を通過して上に上がる

小腸が冷えると、水蒸気が少ない

- 唾液が少ない、下痢が多い

唾液は大腸から!?